

第 17 回 三重河川流域委員会 議事要旨（案）

日時：平成 28 年 7 月 26 日（火）10:00～12:00

場所：プラザ洞津 孔雀の間

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

（1）第 16 回三重河川流域委員会の議事要旨の確認（資料－ 2）

第 16 回三重河川流域委員会の議事要旨について報告し、確認された。

（2）鈴鹿川ふれあい懇談会で頂いた主な意見に対する回答の確認（資料－ 3）

鈴鹿川ふれあい懇談会で頂いた主な意見に対する回答について報告し、確認された。

（3）水防災意識社会再構築ビジョンについての取り組みの確認（資料－ 4）

- ・ P4 浸水想定区域図について、破堤地区とあまり関係ない地区も色が塗られているが、これは内水氾濫によるものか。

→内水氾濫は考慮していない。全ての破堤地点の最大包絡を示している。

→今後、住民の方にもわかりやすい表現にしていく。

- ・ P10 タイムラインという言葉は一般に定着しているのか。

→防災系の関係者には定着しているが、住民の方に対しては、どういったものなのかを説明する必要があると考えている。

（4）鈴鹿川水系河川整備計画（案）について（資料－ 5， 6）

- ・ P3-1 流量分配図について、可能であれば『対象雨量が異なるため合計が合わない』ということを記載いただきたい。

→概要版には記載したが、こちらは法定計画であるためこれ以上詳細な記載は難しい旨をご了解いただきたい。

- ・ P1-11 橋梁の桁下高不足などの表を削除した理由は。

→橋梁については河川管理者が管理するものではないということから対象外として削除した。

- ・ P1-9 図の青線が消えているため修正していただきたい。また、合流点は記載しなくてよいのか。

→青線について修正するとともに合流点を追記する。

- ・ 鈴鹿川水系河川整備計画（案）の本文修正については委員長に一任することで了承された。

（５）鈴鹿川直轄河川改修事業の事業評価について（資料－７）

- ・ P9 B/C が 69.7 というのは望ましい数字なのか。
→事業を進捗させていく上で、投資効果が 1 を切るか切らないかという意味でチェックをしている。
- ・ マニュアルに沿って算定するとういった治水事業は大体何十という数字が普通かと。場合によっては 100 近い数字も出る。そういう面からすると、他河川と比べて特段、特異な数字ではないとは言えるのでは。
→言われるとおり、特異な数値ではなく、基本的には B/C が 1 を超えていれば事業効果があるということであるため、数字としては非常に良い数字だと認識している。
- ・ 貨幣換算困難な水害被害の定量化については、現時点ではまだ試算の段階なのか、または、今後、事業評価にどう生かしていこうという考えがあるのか。
→貨幣換算できない水害指標につきましては、平成 25 年から試行しており、現在も試行という段階である。試行のあり方につきましては、本省で未だ検討中であり、この様な事例を幾つか収集している。今後のあり方については明確なものは決まっていない。
- ・ 想定死者数はどのように算定しているのか。単純に浸水深で算定しているのか。
→水害の被害指標分析の手引にあるように、浸水区域内の人口をまず 65 歳以上と 65 歳未満に分け、それらの方の避難率や、住宅の建物の階数と浸水深に応じた死亡率というものがあり、それらを掛け合わせて算定している。
- ・ 流域委員会として、鈴鹿川直轄河川改修事業の事業評価を了承する。

（６）今後の予定について（資料－８）

- ・ 次回流域委員会にて、櫛田川直轄河川改修事業・櫛田川総合水系環境整備事業の事業評価、及び、鈴鹿川水系河川整備計画の策定状況について報告する。

４．閉会

以上